

交通政策審議会海事分科会第 2 回海事イノベーション部会  
審議概要

(1) 主な成果

具体的施策の骨子とロードマップの検討を行い、大筋合意されました。具体的には 3 次元設計情報と自動化生産設備の連動等による造船工程改革、「i-Shipping※」推進による船舶の高付加価値化、産学連携によるプロフェッショナル造船人材の確保育成体制の強化などの取組を推進することとされました。

※i-Shipping: IoT やビックデータ解析を活用した、先進的な船舶や運航管理・保守サービスを提供するもの。

(2) 議事概要

①前回議事録の承認

第 1 回部会議事概要（案）について、異議なく承認されました。

②業界ヒアリング結果について

「製品・サービスの力」、「拓く力」、「造る力」、「人の力」、「4 つの力」を発揮する上での基礎的条件について、業界ヒアリング結果を紹介しました。

【主な意見】

- ・ i-Shipping について、安全性や効率性に加えて、快適性にも焦点を当てており、日本がさらに力をつけてアピールできる点が拡大するといった強調したい部分も答申に盛り込むべき。
- ・ 答申を広く国民の皆さんに読み、応援いただく観点から、現状の説明、目標の難易度が判断できるような記述もあるとよい。
- ・ 次の人材確保・育成のためには労働環境面における現実もきちんと把握して、どう克服していくかが一番重要。

③答申骨子案とロードマップ案について

ヒアリング結果に基づく課題・ニーズ、具体的推進策、答申案に盛り込むべき要素について説明しました。

【主な意見】

- ・ ルール作りは日本が得意な技術力をいかんなく発揮する上でも重要であることから、IMO 対応は、メーカー、造船所、船会社、海事局が一緒に取り組んでいく必要がある。
- ・ 人材育成について、開発、設計、生産、海洋開発分野で交渉できる人材など必要な人材は多岐にわたるため、答申としてまとめる際は、各対象に合った対応策について考慮したものとしてほしい。
- ・ i-Shipping 等認証制度が進んだ段階では、技術開発支援や海運規制の見直しにつながっていくことが重要。
- ・ 人材の確保について、なぜ来ないのかという点からの分析と工夫が必要。造船所でのインターンシップ、モデル事業についてその効果を検証しつつ、工夫してほしい。

平成 28 年 3 月 11 日

- ・将来職業を選ぶとき、子どもの頃の漠然とした動機付けは残っていることがあり、見学会のような取組は非常に重要。
- ・海洋開発に関して、船用業界では産業分野の総合的な力、オールジャパンで取り組まないとヨーロッパ勢にはなかなか勝てない。陸上の良い製品の船用への転用を推進する等、多方面からの検討が必要である。

以上